

現場見学会を再開できました

3年前、3件行った後にコロナ禍の影響から中断していた現場見学会（以下見学会）を12月13日（火）、「大滝たきのみやこども園」で再開出来ましたことを報告します。見学会は建設会社が、発注者（滋賀県等）の工事の目的・内容を理解し環境保全の役割、機能、新たな担い手の確保等を提案し、採択を受けて実施されます。PAREでは施工される建設工事～護岸や崖崩れ防止工事他～が、温暖化の影響による豪雨災害に不可欠な対策であり、ホテルが飛び交う清流づくりも大切と捉え、紙芝居やモノづくり工作を通じて学んで欲しいと協力・支援しています。

今回の見学会では事前準備として、段ボール箱他による工事現場周辺を再現しました。

園児たちとの学習会は次のように約2時間です。

★国道306号単独道路修繕工事の説明

☆電子紙芝居 「山と道をまもる・工事のお話」

☆ものづくり共同工作 落石防護柵工事

☆ものづくり各人工作 保安灯&蛍：LED

紙面の都合で、参画した園児たちの様子等についての記載は省略しますが、毎回、新たな感動を覚え、我々の活動の起爆材・原動力になっています。



紙芝居：土石流はなぜ発生するの？



防護柵工事：円柱型の紙管を工作中です。

見学会の様子・感想についてはニュースレター、49号、50号、51号も参照ください。

(PARE 企画部会長 長谷利男)

全国小水力発電大会 in 京都

全国小水力発電大会は全国各地で小水力発電に取り組む事業者やこれから取り組もうとしている方々、自治体、農業関係者、技術者、企業等が一堂に会し、先進事例の紹介や地域の課題等を情報交換、議論するものです。京都大会は第7回となります。

京都大会は11月10日～11日に全体会と分科会、12日はエクスカッションが行われ1,000名を超える参加があり、PAREは実行委員会団体として運営に協力しました。

10日は「琵琶湖疎水と水力発電の歴史を振り返って、都の未来を考える」をテーマに基調講演とパネルディスカッション、11日は「オーストラリアに学ぶ再生可能エネルギーと水力」「既存インフラを活用した再生可能エネルギーマネジメント」「若者と考える脱炭素社会と再生可能エネルギー」「地域社会と共生する再生可能エネルギー～合意形成に向けた取り組みを踏まえて」「地域の起業者と考える小水力の地域活用」をテーマに5つの分科会が開催されました。

12日のエクスカッションは滋賀県、三重県、奈良県、福井県の小水力発電所の見学など5コースが行われました。また、10～11日の2日間にわたり小水力発電に関する企業展が行われました。次回の開催地は北海道です。

(PARE 事務局次長 中村庄和)



全国小水力利用促進協議会ホームページより